

まえがき

快適な生活空間と憩いの場を提供してくれる大切な社会資産であるはずの公園緑地について、私たちはどれほど知っているのでしょうか。緑地というのは、実は意図的に植えた植栽植物と非意図的に発生した非植栽植物(雑草)とで構成された混合植生です。しかし、後者についてはほとんど知見がなく、主な雑草の種類さえ把握されていないのが現状です。そこで、NPO 法人緑地雑草科学研究所では、2010年～2012年にわたり「都市公園緑地における発生雑草と植生管理についての広域実態調査」を実施しました。このセミナーは、このプロジェクトの成果報告と同時に、「都市公園とは何か」、「公園における緑地管理とは何か」という広い視点から、あらためて公園緑地の雑草問題を検証していこうと考えて企画しました。

セミナーでは、まず橘俊光氏から、日本において公園緑地がどのように導入され整備・運営されてきたかについて、社会情勢、環境、求められる機能等の変化と関係づけて詳しく紹介して頂きました。次いで、公園実態調査担当者が、主要雑草の種類および管理に関しての調査結果とともに、調査遂行の過程で明らかになった行政・現場を通じた公園管理体制上の問題点について報告しました。さらに伊藤幹二氏からは、この問題に関するリスクコミュニケーションの重要性と、その前提として雑草リスクと管理リスクの個々についての公正な評価が重要であることが指摘されました。雑草・管理手段のリスク全体のなかで、化学物質の利用だけを危険視する行政機関を中心とした誤ったリスク評価がいかに問題を生んでいるかについては、2011年のセミナーで検証したところです。これらの講演に引き続き、公園を利用する市民、公園管理者、植生維持管理者も加わってのパネルディスカッションを行いました。時間不足で十分な意見交換は出来なかったのは残念です。

全体を通して参加者が得た共通認識は、公園緑地をどのようにしていくかは、これに関わる行政・企業・市民等関係者間の意思疎通は当然として、主体は、あくまで“受益者”である市民という意識が必要ということであったと思います。公園を利用しその緑地環境の恩恵を受ける地域住民自身が、この資産をより良い形で次世代に受け渡すためにも、緑地管理に決定的な影響を与えている“雑草・雑草問題”についてのしっかりした知識と考え方をもちることが望まれます。そこで、NPO 法人緑地雑草科学研究所では、できるだけ多くの方に雑草に関心をもって頂くとともに、その総力をもって必要な知見を集積し対策に資することを目標に、“雑草ウォッチャー”事業を立ち上げることにしました。必要なのは皆様の身近なところの情報ですので、ぜひご協力をお願いします。

最後に、公園調査にご援助、ご協力くださいました多くの方々に心よりお礼申し上げます。なお、今回の実態調査ならびに成果報告は、すべてこのプロジェクトにご理解とご賛助を下さいました民間の援助により遂行し得たものです。ここに記して深謝申し上げます。

2012年10月

公園雑草実態調査責任者／セミナー運営委員長
伊藤操子（NPO 法人緑地雑草科学研究所）

公園緑地と雑草
—都市公園の広域実態調査（2010～2012年）報告を兼ねて—

目 次

<講 演>

わが国の公園緑地について

橘 俊光（兵庫県県土整備部）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

公園緑地における雑草と管理の実態 —都市公園の広域実態調査成果報告—

伊藤操子・小西真衣（NPO 法人緑地雑草科学研究所）・・・・・・・・・・ 11

雑草のリスクと管理のリスク：何のための管理か？

伊藤幹二（マイクロフォレストリサーチ株式会社）・・・・・・・・・・ 43

<パネルディスカッション>

話題提供

公園管理者から

瀧本吉伸（兵庫県有馬富士公園）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 54

緑地管理・公園調査員から

松岡憲吾（大信産業株式会社）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 56

市民・公園調査員から

長尾信子（浜寺公園グリーンメイツ）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 59

常澤聡美・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 60

討 論（コーディネーター：長村智司（社団法人フラワーツサイエティ））・・・・ 61

公園調査員一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 64